

授業 科目名	看護技術論Ⅰ（生活援助技術） Principles of Nursing SkillⅠ	履修年次 必修：看１年	単位数： 2単位 60時間 コード：NSB104	担当教員名： 科目責任者 河部房子〔看護師〕 （研究室：教育棟B307） 今井宏美〔看護師〕、小布施未桂〔看護師〕、 仁井田友紀〔看護師〕
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
①看護技術の本質と修得過程を理解し、看護技術の学習の仕方を身につける。				
②学習する生活援助技術が、看護の対象となる人々の快適で健康的な生活を支えることを理解する。				
③各援助技術の原則と方法について理解し、根拠を押さえながら修得する。				
〔授業の概要〕				
演習を主体とした授業形式により、看護実践の基盤となる日常生活援助について、基本的知識と科学的根拠に基づいた原理・原則を教授する。生活援助技術の選択、援助方法、評価について実践的に学ぶ。				
キーワード:病床環境、食事介助、体位変換、移動・移乗、排泄ケア、清潔ケア、ボディメカニクス				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当者
第１・２回	10/3（合）	ガイダンス 看護技術とは 環境調整技術１・２	看護実践における看護技術 病床環境・ボディメカニクス ベッドメイキング	河部房子
第３・４回	10/8・9	活動と休息の援助技術 １・２	体位変換・床上移動、	河部房子他
第５・６回	10/15・16	環境調整技術 ３・４	感染予防の基本技術	今井宏美他
第７・８回	10/22・23	環境調整技術 ５ 活動と休息の援助技術 ３	感染予防の基本技術 移動・移乗技術	今井宏美他 河部房子他
第９・１０回	10/29・30	活動と休息の援助技術 ４・５	移動・移乗技術	河部房子他
第１１・１２回	11/5（合）	清潔の援助技術 １・２	清潔援助の基礎知識	河部房子他
第１３・１４回	11/12・13	技術チェック 排泄の援助技術 １	排泄の援助技術	全員（授業補助者） 河部房子他
第１５・１６回	11/20	排泄の援助技術 ２・３	排泄の援助技術	河部房子他
第１７・１８回	11/27	清潔の援助技術 ３・４	寝衣交換・陰部洗浄	全員 （授業補助者）
第１９・２０回	12/4	食の援助技術 １・２	食の援助の基礎知識	今井宏美他
第２１・２２回	12/11	食の援助技術 ３・４	食事介助・口腔ケア	今井宏美他
第２３・２４回	12／18	清潔の援助技術 ５・６	足浴・洗髪	全員 （授業補助者）
第２５・２６回	1/8	清潔の援助技術 ７・８	全身清拭	全員 （授業補助者）
第２７・２８回	1/22	総合演習	模擬場面における看護展開	全員
第２９・３０回	1/29			（特別講義講師） （授業補助者）
履修条件		特になし		
予習・復習		予習：各単元担当教員より事前課題の指示がある 復習：各援助技術を身につけるため、授業で学習した内容を自己学習する		
テキスト		①茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ，基礎看護学【２】，医学書院。 ②任和子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ，基礎看護学【３】，医学書院。 ③薄井坦子他：Module 方式による看護方法実習書（第３版），現代社，2006.		
参考書・参考資料等		随時紹介する		
学生に対する評価		毎回の課題（60％）、総合演習（30％）、学習態度（10％）により総合的に評価		

授業 科目名	看護技術論Ⅱ (フィジカルアセスメント) Principles of Nursing Skills Ⅱ	履修年次:	1 単位 30 時間	担当教員名: 科目責任者 今井宏美〔看護 師〕(研究室 教育棟 B304) 河 部房子〔看護師〕、小布施未桂〔看 護師〕、仁井田友紀〔看護師〕
		必修: 看 1 年	コード: NSB105	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕・看護実践におけるフィジカルアセスメントの位置づけ、問診・観察技術・フィジカルイグザミネーション(視診・聴診・触診・打診)を実施するにあたっての基本的な知識と技能を理解する。・バイタルサインを正確に測定できるようになる。・フィジカルアセスメントより得られた情報を基に、対象の健康状態を査定し、看護援助につなげていくことができる。				
〔授業の概要〕この授業では、各担当者の実務経験に基づいた目と耳と手と器具を用いたフィジカルイグザミネーションを教授し、習得したフィジカルアセスメントの技術を看護援助につなげる思考を学習する。				
キーワード: バイタルサイン、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	11/19	ガイダンス フィジカルアセスメント総論	フィジカルアセスメントと フィジカルイグザミネーション	今井宏美
第 2 回	11/26	バイタルサイン	体温・呼吸・血圧(聴診法)測定/座位	今井宏美他* (授業補助者*)
第 3 回	11/26	バイタルサイン	体温・呼吸・血圧(聴診法)測定/臥位	今井宏美他*
第 4 回	12/3	バイタルサイン	血圧(触診法)測定	今井宏美他*
第 5 回	12/3	バイタルサイン	運動によるバイタルサインの変化	河部房子他*
第 6 回	12/10	バイタルサイン	血圧測定の技術チェック	今井宏美他*
第 7 回	12/10	バイタルサイン	意識と痛み	河部房子他*
第 8 回	12/17	系統別アセスメント(循環器系) 班別	循環器系のフィジカルイグザミネー ション/胸痛/正常心音の聴診/尿量	河部房子他*
第 9 回	12/17	系統別アセスメント(循環器系) 班別	呼吸器系のフィジカルイグザミネー ション/呼吸困難/正常呼吸音の聴診	今井宏美他*
第 1 0 回	1/7	系統別アセスメント(呼吸器系) 班別	腹部(主に消化器系)フィジカルイグ ザミネーション/腹痛/腸蠕動音	今井宏美ほか
第 1 1 回	1/7	系統別アセスメント(呼吸器系) 班別	フィジカルイグザミネーションの結 果を査定し、看護援助へつなげる	今井宏美他*
第 1 2 回	1/14	系統別アセスメント(消化器系)		
第 1 3 回	1/14	フォーカスアセスメントの思考		
第 1 4 回	1/21・	総合演習 班別		
第 1 5 回	23IVV	総合演習 班別		
履修条件		特になし		
予習・復習		予習: 各単元担当教員より、事前課題の指示がある。 復習: 各技術を身につけるため、授業時間外の自己学習をすること。LB 活用		
テキスト		茂野香おる他、系統看護学講座 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ、医学書院。		
参考書・参考資料等		①山内豊明(2023). 緊急度を見抜く! バイタルサインからの臨床推論 第1版、医学書院。②山内豊明(2011). フィジカルアセスメントガイドブック 第2版、医学書院。③日野原重明編(2006). フィジカルアセンメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版、医学書院。		
学生に対する評価		定期試験(50%)、課題(20%)、技術チェック・総合演習(20%)、学習態度(10%)		

授業 科目名	看護技術論Ⅲ (検査治療技術) Principles of Nursing Skills Ⅲ	必修：看2年	2単位 60時間	担当教員名： 科目責任者 河部房子〔看護師〕 (研究室：教育棟 B307) 今井宏美〔看護師〕、小布施未桂〔看護 師〕、仁井田友紀〔看護師〕
			コード：NSB106	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム、Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
①診断・治療過程に伴う侵襲的な治療を必要としている人への看護技術とは何かを理解し、説明できる。 ②診断・治療過程における看護者の役割や責務について理解する。 ③診断・治療過程に用いられる看護基本技術（無菌操作、与薬、採血、導尿、浣腸、経腸栄養法、吸引等）の 原理原則を理解する。				
〔授業の概要〕健康障害をもつ対象者の状態・諸条件を把握した上で、その診断・治療過程を理解し、療養 に必要な援助を実施するための基本的知識と看護基本技術の原理・原則を教授する。また、既習事項である アセスメントから看護ケアに至る思考過程をふまえつつ、模擬状況における看護を実践し、自己の学習課題 を明確にする。				
キーワード：無菌操作、与薬、静脈血採血、導尿、浣腸、経腸栄養法、吸引、看護アセスメント				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当者
第1回	4/9 (合同)	ガイダンス 検査治療技術とは	看護における検査治療技術	河部房子
第2～6回	4/9 (合同) 15・16	感染予防の援助1～5	滅菌手袋の装着 滅菌物の取り扱い スタンダードプリコーション	今井宏美他
第7～9回	4/22・23	診療に伴う排泄の援助 1～3	診療に伴う排泄の援助の 基礎知識・導尿・浣腸	河部房子他
第10～12回	4/30・5/7	薬物療法の援助1～3	薬物療法の基礎知識・注射・	河部房子他
第13～15回	5/13・14	検査における援助 1～3	検査における援助の基礎知識・ 静脈血採血	仁井田友紀他
第16～18回	5/20・21	薬物療法の援助4～6	薬物療法の援助・点滴静脈内注射	河部房子他
第19～21回	5/27・28	呼吸を整える援助 1～3	呼吸を整える援助の基礎知識 酸素療法・ネブライザー・吸引	今井宏美他
第22～24回	6/3・4	診療に伴う食の援助 1・2	診療に伴う食の援助の基礎知識・ 経腸栄養	小布施未桂他
第25～27回	6/10・11	看護アセスメント 総合演習課題		全員 (授業補助者)
第28～30回	6/17・18	総合演習 まとめ		(特別講義講師)
履修条件		看護技術論Ⅰ、看護技術論Ⅱを履修していることが望ましい。		
予習・復習		予習：各単元担当教員より、事前課題の指示がある。 復習：各援助技術を身につけるため、授業で学習した内容を自己学習すること。		
テキスト		任和子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ，基礎看護学【3】，医学書院。 薄井坦子他：Module 方式による看護方法実習書（第3版），現代社，2006.		
参考書・参考資料等		随時指定する		
学生に対する評価		各単元の課題(70%)、総合演習(20%)、学習態度（10%）により総合評価する。		

授業 科目名	看護技術論Ⅳ (看護過程展開技 術) Principles of Nursing Skills Ⅳ	履修年次	単位数：	担当教員名：
		必修：看 2 年	1 単位 30 時間	科目責任者 河部房子 [看護師]
			コード：NSB107	(研究室：教育棟 B307)
		実務経験のある教員による授業科目	今井宏美 [看護師]、小布施未桂 [看護師]、 仁井田友紀 [看護師]	

〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム、Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
① 看護実践における看護過程の意義について理解する。				
② 看護過程の構成要素（アセスメント、看護問題の明確化、計画の立案、実施、評価）と、その思考過程につ いて理解する。				
③ 事例を用いて看護過程を展開する思考過程をたどり、アセスメントから計画立案・実施した看護の評価に至 る思考のすすめ方を理解する。				
④ 自己の看護実践体験を評価し、自己の思考の特徴や今後の学習課題を明確にする。				
〔授業の概要〕 この授業はグループワークによる演習を主体とし、事例を用いて具体的に看護過程の展開を学ぶ。 この事例展開においては、対象の事実から健康状態を判断し、その健康状態をより良い状態へと導く条件を特定し、 対象者の個別な反応を重ねて看護の方針を定め具体的な計画立案へと進むプロセスを学ぶ。計画を立案した後、実 際の看護者の関わり場面を、看護の方向性に照らして評価する評価方法について学ぶ。最終的に、基礎看護学実 習における看護実践体験を、授業で学んだ思考過程を活用して評価し、自己の学習課題を明確にする。				
〔授業計画〕 キーワード：看護過程 アセスメント 看護計画立案 看護の評価				
回数	日付	テ ェ マ	内 容	担当者
第 1 回	11/25	ガイダンス 看護過程と構成要 素	授業概要、看護過程とはなにか 事例の説明、ワークの進め方	河部房子
第 2・3 回	12/9	事例を用いた看護過程の展開 1	グループワークによる演習・まとめ アセスメント 1	河部房子
第 4・5 回	12/16	事例を用いた看護過程の展開 2	グループワークによる演習・まとめ アセスメント 2	河部房子他
第 6・7 回	12/23	事例を用いた看護過程の展開 3	グループワークによる演習・まとめ アセスメント 3	河部房子他
第 8・9 回	1/6	事例を用いた看護過程の展開 4	グループワークによる演習 看護計画の立案	河部房子他
第 10・11 回	1/13	事例を用いた看護過程の展開 5	グループワークによる演習・まとめ 看護計画の発表 看護の評価	河部房子他
第 12・13 回	1/20	事例を用いた看護過程の展開 6	グループワークによる演習・まとめ 新しい事例に対して、学んだ思考過 程に沿ってアセスメントをする。	河部房子他
第 14・15 回	1/27	事例を用いた看護過程の展開 7 まとめ	グループワークによる演習・まとめ	河部房子他
履修条件		基礎看護学実習を履修していることが望ましい		
予習・復習		予習：事例のアセスメントに必要な専門知識の学習 復習：各回の学習内容、グループワークの内容を整理して理解し、考え方を身につける		
テキスト		薄井坦子：改訂版 看護学原論講義，現代社，1995. 薄井坦子他：Module 方式による看護方法実習書（第 3 版），現代社，2006.		
参考書・参考資料等		適宜、提示する。		
学生に対する評価		グループワークでの課題（40％）、個人課題レポート（40％）、学習態度（20％）によ り総合的に評価する。		

授業 科目名	看護技術論Ⅴ (統合技術演習) Principles of Nursing Skills Ⅴ	履修年次 必修：看２年	単位数： 1 単位 30 時間	担当教員名： 科目責任者 河部房子〔看護師〕 (研究室：教育棟 B307) 今井宏美〔看護師〕、小布施未桂〔看護師〕、 仁井田友紀〔看護師〕
			コード：NSB108	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
① これまで学んだ技術を統合して、対象者への援助を実施していく過程を理解する。				
② 模擬状況の看護場面における看護実践を行い、その振り返りを通して自己の看護技術の修得状況を自己評価し、学習課題を定める。				
〔授業の概要〕この授業では、演習を主体とした授業形式により、看護技術論で学んできた看護技術の原理・原則や看護過程展開の技術を統合して、対象者に実践する方法論を学修する。これまで学んだ看護基本技術を複合技術として身につけることを通して、看護基本技術の定着と実践力の強化をはかる。また、各技術チェックを通して自己の技術の修得状況を自己評価し、さらに技術修得レベルを高めるための課題を明確にする。				
キーワード 無菌操作、ヒューマンエラー、導尿、与薬、吸引				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ィ マ	内 容	担当者
第１・２回	10/7	ガイダンス・特別講義 感染予防の援助１	授業概要・看護における検査治療技術 感染経路別予防策 滅菌手袋の装着 滅菌物の取り扱い	河部房子 今井宏美
第３・４回	10/21	感染予防の援助２・３	無菌操作（技術チェック）	今井宏美他
第５・６回	10/28	検査における援助１・２	静脈血採血	河部房子他
第７・８回	11/4	検査における援助３・４	静脈血採血（技術チェック）	河部房子他 (授業協力者)
第９・１０回	11/11	呼吸を整える援助１・２	気管内吸引	今井宏美他 (授業協力者)
第１１・１２回	11/18	呼吸を整える援助３・４	気管内吸引（技術チェック）	今井宏美他 (授業協力者)
第１３回	11/25	診療に伴う排泄の援助 １・	導尿	河部房子他
第１４・１５回	12/2	診療に伴う排泄の援助 ２・３	導尿（技術チェック）	河部房子他 (授業協力者)
履修条件		看護技術論Ⅰ～Ⅲを履修していることが望ましい		
予習・復習		予習：各援助技術の前提知識の復習（看護技術論Ⅲでの学習内容の確認） 復習：演習・技術チェックの振り返り		
テキスト		看護技術論Ⅰ～Ⅲで用いたもの		
参考書・参考資料等		適宜、提示する。		
学生に対する評価		各単元での課題と技術チェック（80％）、学習態度（20％）により総合的に評価する。		

授業 科目名	日常生活調整方法論 (Methods in Health Management)	選択：看2年	1 単位 15 時間 コード：NSB109	担当教員名： 科目責任者 河部房子〔看護師〕 (研究室：教育棟B307) 今井宏美〔看護師〕、小布施未桂〔看護 師〕、仁井田友紀〔看護師〕
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
- 人間の健康状態と日常生活との関連について、食と排泄、運動と休息のバランスの観点から理解する。 - 自身の自覚している身体不調の改善に向け、現在の身体状態を評価するためのモニタリング指標、生活改善の具体的な計画を定める。 - 計画に沿って、日常生活調整を行い、その調整の成果を、モニタリング指標を元に評価する。				
〔授業の概要〕				
この授業では、東洋医学において「未病」とされる身体不調を、日常生活の調整を通して改善するための基礎的知識と具体的な実践方法について学修する。ここでの日常生活の調整とは、食と排泄、運動と休息の調整を主とする。看護技術論Ⅰで学んだ内容をさらに深め、それぞれの具体的な調整方法やその科学的根拠について学修する。さらに、学んだことを用いて、自己の生活の改善計画の立案と実施に取り組み、その成果について評価する。				
キーワード：日常生活調整 セルフケア 食と排泄 運動と休息				
〔授業計画〕				
回	数	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4/11	ガイダンス 日常生活を調整するとは	授業概要について 身体不調と日常生活調整との関連について、事例を元に理解する	河部
第2回	4/18	様々な身体不調と生活調整	青年期によくある身体不調として、月経不順、便秘、貧血、冷え等を取り上げ、その機序や改善のための生活調整について理解する	河部
第3回	4/25	運動と休息のバランスをととのえる	生活調整の視点として、運動と休息のバランスをととのえるために必要な知識と、具体的な生活調整の方法について理解する	河部
第4回	5/9	食と排泄のバランスをととのえる	生活調整の視点として、食と排泄のバランスをととのえるために必要な知識と、具体的な生活調整の方法について理解する	河部
第5回	5/16	各自の日常生活調整計画の立案	各自が、自己の身体不調を改善するための生活調整の方法について、具体的に計画立案する	全員
第6・7回	5/23, 30	日常生活調整の取り組み状況報告	立案した計画に沿って取り組み、その取り組み状況を報告する。	全員
第8回	6/6	日常生活調整の取り組み結果	これまでの取り組み状況と成果について報告する。	全員
履修条件		看護技術論Ⅰを履修していることが望ましい この授業を通して改善したい身体不調のある学生の受講を原則とする		
予習・復習		予習：第5回以降の取り組みに関連する知識の学習 復習：授業のレジュメの見直し		
テキスト		特になし		
参考書・参考資料等		随時紹介する		
学生に対する評価		各自の取り組み状況とレポート（90%）、学習態度（10%）により総合評価する		

授業 科目名	看護学入門実習 Hands-on Learning for Nursing Freshmen	履修年次: 必修：看1年	2単位 90時間	担当教員名: 科目責任者 木内千晶[看護師] (教育棟 B315)、 浅井美千代[看護師]、石井邦子[助産師]、 市原真穂[看護師]、春日広美[看護師]、 河部房子[看護師]、小宮浩美[看護師]、 佐藤紀子[保健師]
			コード: NSB110	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ. 倫理観とプロフェッショナルリズム、Ⅱ. コミュニケーション能力、 Ⅶ. 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 看護を学ぶ初期の段階で看護の対象となる様々な年代や健康レベルの人々を理解するとともに、多様な場で提供される看護を理解することにより、対象者（患者・生活者）の視点から看護の意義・役割について考えられる基盤づくりをする。そのことをとおして看護学への関心を高め、これから本格的に開始される学習への動機付けとする。				
〔授業の概要〕 病院・診療所・高齢者ケア施設・助産所・市町村保健センターなど、健康レベル・ライフサイクル・生活の場などを考慮して組み合わせられた3か所での施設学習、患者体験者との交流、乳幼児または高齢者のいる家庭への訪問を実施する。これらの体験を踏まえ、また、看護師、保健師、助産師の実務経験を基盤にした担当教員の指導のもと、看護の対象の多様性、人々の生活と健康の関連、看護の意義・役割について考える。				
キーワード: 看護学、対象、生活、健康				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	5/29 Ⅱ	学習目的・ 目標および 学習内容	実習目的・目標説明および学習内容について	浅井美千代 石井邦子 市原真穂 春日広美 河部房子 木内千晶 小宮浩美 佐藤紀子
第2回 }	6/5 }	体験学習	①体験ごとのオリエンテーションおよび事前学習 (6/5、6/12、6/19のⅠ・Ⅱ) ②施設学習（3日）：病院1日、診療所1日、市町村保健 センター・介護保険施設・助産施設・精神科デイケア 施設のいずれか1日 ③患者体験をもつ人や家族との交流（1日） ＊②③は、グループごとに6/25、7/2、7/9、7/16に ローテーションで実施 ④家庭訪問（1回）：乳幼児のいる家庭もしくは高齢者の いる家庭のどちらかを1回訪問 ⑤体験学習の整理、レポート作成 ⑥各自の体験・学びを発表し合い、到達目標に向けて意見 交換 ＊⑤⑥は、6/26、7/3、7/10、7/17のⅠ・Ⅱに実施 ⑦実習のまとめ	
第10回	7/17			
履修条件		看護学入門を履修済みのこと		
予習・復習		各担当教員の指示による		
テキスト		特定のものはなし		
参考書・参考資料等		その都度配布する		
学生に対する評価		学習態度（30%）、課題別レポート（50%）、最終レポート（20%）		

授業 科目名	基礎看護学実習 Fundamental Nursing Practicum	履修年次 必修：看2年	単位数： 2単位 90時間 コード：NSB111	担当教員名： 科目責任者 河部房子〔看護師〕 (研究室：教育棟B307) 今井宏美〔看護師〕、西村宣子〔看護師〕、 富樫恵美子〔看護師〕、小布施末桂〔看護師〕、 仁井田友紀〔看護師〕
〔DP〕Ⅱ コミュニケーション能力、Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 実習目的：受け持ち患者との関わりを通して、患者の療養生活と療養生活における看護の必要性を理解し、 患者の個性に合わせた日常生活援助を実施・評価する。 ①受け持ち患者および家族を看護の対象として、尊重しつつ関わることができる。 ②受け持ち患者の全体像を描き、看護援助の必要性を把握することができる。 ③受け持ち患者の看護援助の必要性と、これまでに学習した援助技術の目的、原理原則をふまえ、患者に 合わせた援助技術を考え、可能な範囲で実施・評価できる。 ④看護専門職を目指す学生としての責任を自覚し、看護学生として適切な態度や行動をとることができる				
〔授業の概要〕 療養中の患者を取り巻く環境や療養生活、患者に必要な看護援助を決定するプロセスを理解し、患者理解 を深めながら、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養うことを目的とする。また既習技術を用いて必 要な情報を収集して患者像を描き、生活援助技術を患者の条件に合わせて応用して実施、評価する。 実習施設は千葉市立海浜病院、東京歯科大学市川総合病院、千葉療護センターの予定である。詳細な日程 や学習の進め方については、別途指示する。				
〔授業計画〕 キーワード：対象理解、看護援助、援助的人間関係、看護実践、評価				
回 数	テ ィ マ	内 容		担当者
	事前オリエンテーション	実習の目的・目標、実習方法等について		河部房子他
第1回	臨地実習 実習施設オリエンテーション	病院の概要や組織、看護と他部門の関係を知る 病棟の構造や機能、患者の特徴や看護体制を知る		河部房子他
第2 ～9回	受け持ち患者の理解および 看護援助の実施	受け持ち患者への看護過程を展開する。 描いた患者像を元に、実施する援助技術の原理原 則をふまえつつ、患者に適した援助方法を考え、 実施・評価する。 評価をもとに、援助方法を修正し、実施につなげ るプロセスを学ぶ。		全教員
第10回	学びの共有/評価	学びの発表・討議、総合評価		全教員
履修条件		看護学入門、精神看護学概論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ、看護学入門実習は単位取得済、 看護技術論Ⅲは単位取得見込み		
予習・復習		実習担当教員の指示による		
テキスト		特に指定しない		
参考書・参考資料等		看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用したもの、必要に応じて適宜		
学生に対する評価		実習目標の達成状況（100％）により、評価する。		

授業 科目 名	臨床看護学概論 (Introduction to Clinical Nursing)	履修年次: 必修: 看2年 編3年	1 単位 15 時間	担当教員名: <u>科目責任者 浅井美千代[看護師]</u> (研究室: 教育棟 B319) 三枝香代子[看護師]・田口智恵美[看護師]
			コード: NSP201	
		実務経験のある教員による授業科目		
Ⅱ DPⅠ 倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅱ コミュニケーション能力、Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
成人期にある人々の特徴についての理解を基盤に、様々な健康レベルにある成人患者に対する看護のあり方について学ぶ。				
到達目標: ①成人期にある人々の発達上の特徴および特徴的な健康問題について理解できる。				
②様々な健康レベルにある成人患者の特徴とその特徴に応じた看護のあり方を理解できる。				
〔授業の概要〕				
①-1 ライフサイクルにおける成人期の位置づけと発達上の特徴 (身体的・心理的社会的特徴)、成人保健の動向および成人期に特徴的な健康問題について教授する。				
①-2 成人期にある人々の特徴を理解するための諸理論・概念について教授する。				
② 様々な健康レベルにある成人患者に対する看護のあり方について、看護師の実務経験に基づき教授する。				
キーワード: 成人期 急性期、回復期、慢性期、終末期				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	10/1Ⅳ	成人を理解するための理論・概念 1	成人の適応を促すための理論・概念	田口智恵美
第 2 回	10/1Ⅴ	成人を理解するための理論・概念 2	成人の発達を促進するための理論・概念①	三枝香代子
第 3 回	10/8Ⅳ	成人を理解するための理論・概念 3	成人の発達を促進するための理論・概念② 成人と関係を結ぶための理論・概念	浅井美千代
第 4 回	10/15Ⅳ	成人期にある人々の特徴	成人期 (青年期・壮年期・中年期・向老期) の特徴 成人保健の動向および成人期に特徴的な健康問題	浅井美千代
第 5 回	10/22Ⅳ	回復期・慢性期にある成人患者の看護	回復期・慢性期とは 回復期・慢性期にある成人患者および家族の特徴 回復期看護および慢性期看護とは	浅井美千代
第 6 回	10/29Ⅳ	急性期にある成人患者の看護	急性期とは 急性期にある成人患者および家族の特徴 急性期看護とは	三枝香代子
第 7 回	11/12Ⅳ	終末期にある成人患者の看護	終末期とは 終末期にある成人患者および家族の特徴 終末期看護とは	浅井美千代
第 8 回	11/19Ⅳ	まとめ	授業全体のまとめ	浅井美千代
履修条件		特になし		
予習・復習		テキストの該当ページを掲示する。テキストを読んで授業に臨むこと。 復習は、授業資料の見直しを推奨。		
テキスト		成人看護学概論, 南江堂		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験 (90%) と学習態度 (10%) により評価する。		

授 業 科 目 名	臨床看護学方法論Ⅰ (急性期・がん) (Methods I in Clinical Nursing)	履修年次 必修：看3年	2単位 30時間	担当教員名： 科目責任者 三枝香代子〔看護師〕 (研究室 教育棟B318) 田口智恵美〔看護師〕・大内美穂子〔看護師〕 浅井美千代〔看護師〕・大塚 知子〔看護師〕
		コード：NSP202		
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 疾患や障害により治療を必要とする患者とその家族への基本的看護援助方法を理解できる。 ①急性状況下にある患者とその家族への看護援助方法を理解できる。 ②手術を受ける患者とその家族に対する看護援助方法を理解できる。 ③がん治療を受ける患者とその家族への看護援助方法が理解できる。				
〔授業の概要〕 本授業は、講義形式により、急性状況下にある患者とその家族に対する基本的な看護援助方法論およびがん に罹患した患者と家族に対する基本的な看護援助方法論について学習する。まず、手術を受ける患者とその家 族、救急・集中治療下にある患者とその家族への基本的な看護援助方法論について教授する。次に、今日のが ん医療において求められる看護の役割と機能、がん罹患及び治療に伴う苦痛症状とそのマネジメント方法、がん 治療を受ける患者とその家族への看護援助方法について教授する。				
キーワード：術前看護、術中看護、術後看護、クリティカルケア看護、救急外来、がん看護				
〔授業計画〕				
回 数	日 付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4/ 9Ⅱ水	周手術期看護	術前期における看護	大内美穂子
第2回	4/16Ⅱ水		術中期における看護	大内美穂子
第3回	4/23Ⅱ水		術後期における看護1	田口智恵美
第4回	4/30Ⅱ水		術後期における看護2	三枝香代子
第5回	5/7 Ⅱ水	手術の特徴と看護	運動器疾患手術と看護	三枝香代子
第6回	5/14Ⅱ水		開頭術と看護	三枝香代子
第7回	6/12Ⅲ木		開胸術と看護	田口智恵美
第8回	6/12Ⅳ木		鏡視下手術と看護（胸腔鏡・腹腔鏡）	大内美穂子
第9回	6/19Ⅲ木	救急・集中治療に おける看護	救急搬送患者に対する看護	三枝香代子
第10回	6/26Ⅲ木		集中治療下（ICU）にある患者に対する看護1	田口智恵美
第11回	6/26Ⅳ木		集中治療下（ICU）にある患者に対する看護2	田口智恵美
第12回	7/3Ⅲ木	がんの特徴と看護	がん医療における看護の役割 遺伝看護の実際	浅井美千代 特別講義講師 〔看護師〕
第13回	7/3 Ⅳ木		がん放射線療法を受ける患者への看護	特別講義講師 〔看護師〕
第14回	7/10Ⅲ木		がん薬物療法を受ける患者への看護1	大内美穂子 大塚 知子
第15回	7/10Ⅳ木		がん薬物療法を受ける患者への看護2	
履修条件		臨床看護学概論の単位を修得していることが望ましい。		
予習・復習		テキストの該当ページを掲示する。テキストを読んで授業に臨むこと。 復習は、授業資料の見直しを推奨。		
テキスト		成人看護学 急性期看護Ⅰー概論・周手術期看護ー，南江堂 成人看護学 急性期看護Ⅱー救急看護ー，南江堂/成人看護学 成人看護技術，南江堂 系統看護学講座ー別巻 がん看護学，医学書院		
参考書・参考資料等		授業中の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験 90%、学習態度 10%により評価する。		